



果樹特報 No.1

令和5年 3/16号
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

今回の内容：準備整次第、休眠期防除へ！

本年は積雪量が少なく気温が平年より高い状況で経過しており、生育は早まる予想です。今後の気象予報に注意しながら、準備が整次第休眠期防除を進めてください。

また、凍霜害が心配されるため防霜資材の準備等、万全な準備を行ってください。

発芽予想 平岡：3/29頃？ *参考：昨年 4/5 平年 4/1

発芽：頂芽の先端が破れ、緑色の芽が2~3確認できた日

果樹試験場エゾノコリンゴ発芽：2/20 *昨年比+10日

りんご発芽前の薬剤散布

- 石灰硫黄合剤とベフラン液剤の2体系を記載しています。下記の内容を読み、どちらかを選択してください。
- 休眠期散布の目的：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の初期密度抑制

石灰硫黄合剤体系 (発芽前に間に合わない場合は、ベフラン液剤体系で対応下さい)

散布時期：発芽前 (3月下旬)

散布薬剤	水	88ℓ
	スプレーオイル	2ℓ
	石灰硫黄合剤	10ℓ

散布日： 月 日

散布量 ℓ

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10アール当り散布量 300ℓ

【注意事項】

- ① 混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ 石灰硫黄合剤 *よく攪拌する。
- ② 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ③ 注意：石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。

ベフラン液剤体系

散布時期：発芽前～発芽後7日以内 (3月下旬～4月初旬)

散布薬剤 水 98ℓ

劇ベフラン液剤 25 100ml (休眠期・6回以内 *但し、開花期以降は3回まで)

スプレーオイル 2ℓ

散布日： 月 日

散布量 ℓ

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10アール当り散布量 300ℓ

【注意事項】

- ① ベフラン液剤25は「劇物」です。ご購入の際は、印鑑をご持参下さい。
- ② 混用順：水 ⇒ ベフラン液剤 ⇒ スプレーオイル *よく攪拌する。
- ③ カイガラムシ類対策：アプロードフロアブル1,000倍を加用する。
- ④ 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。

栽培日誌は、3月末に配布予定です。

【重要】春の重点作業等は裏面をお読みください。

春の重点管理作業（腐らん病対策・粗皮削り・凍害対策について）

1. 腐らん病対策

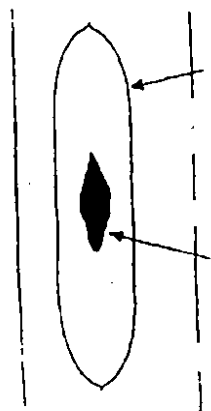
R7年にベフラン液剤が登録失効となる見込みで、その後の腐らん病の多発が心配されます。病斑を見つけ次第、切除や削り取りを行い、物理的防除に努めてください。



- ① 各自園地点検を実施し早期発見に努める。（幹・枝部だけでなく、果台部にも見受けられる）
- ② 病患部を見つけ次第切除または削り処理等を行なう。
- ③ 削り取った病患部や、り病枝は焼却する。
削り取った後、傷口に塗布剤トップジンMペーストを塗る。（腐らん病シートを巻く）

6月に入ると病斑進展が最大となるとともに孢子飛散が始まり、せん定等の傷口からの感染が増大します。つきましては、病斑部を見つけ次第、切り取り・削り取り等の抑制処理を進め腐らん病を一掃してください。

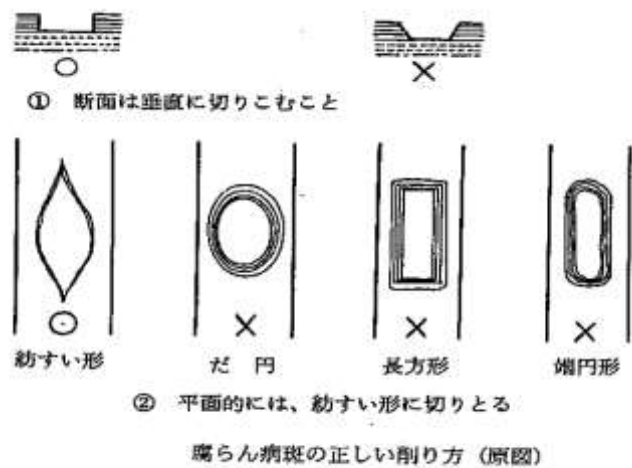
腐らん病の削り取り方法



【削り取り部】

木質部の変色している部分は周辺の健全部を含みすべて削り取る。

【病斑部】



① 断面は垂直に切りこむこと

紡すい形

だ円

長方形

端円形

② 平面的には、紡すい形に切り取る

腐らん病斑の正しい削り方（原図）

～ 具体的な方法 ～ *必ずお読みください。

- ① 幹や枝の伸びる方向に口がつかまるように紡すい形に切り取る。
- ② 切り口部は木質部が垂直になるようにする。
- ③ 表面の腐敗部だけでなく形成層の変色及びその周辺の健全部も削り取る。
- ④ 削り取った後は保護のためにトップジンMペーストなど塗布する。
- ⑤ 泥巻きをする場合は、病斑部だけでなく上下に長く巻き、乾かないようにビニール等で密封する。

2. 粗皮削り（ハダニ類・カイガラムシ類・輪紋病対策）

リンゴハダニ、カイガラムシ類は粗皮下等に越冬しています。休眠期防除前に粗皮削りを行い薬剤が直接かかるようにしてください。また、カイガラムシ類の寄生が多い園では、散布前に金ブラシ等で削り落す作業を行ってください。輪紋病（いぼ皮病）の罹病樹（枝）も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけ次第、必ず粗皮削りを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。

3. 凍害対策

寒のもどりによって、若木・わい化樹の樹体凍害発生が心配されます。発生防止のため、以下の点にご注意ください。

- ① 稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。*4月下旬頃まで薬剤散布が樹幹にかかりにくい状況になるため、わい化樹や5年生未満の若木のみ除去を遅らせる。
- ② 排水性の悪い園地では、暗きよや・明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は浅植えに努める。
- ③ 風当たりの強い園地では、防風ネット等で緩和に努める。